

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は『持続可能な生産消費形態を確保する』。

パルシステム神奈川
ゆめコープ常任理事

中島洋子さん



関東を中心とした生活協同組合が参加するパルシステム

ループは、安全で安心な食材の宅配事業などを展開しています。安さや便利さだけを求めるのではなく、環境に配慮しているのかなどの商品の背景まで理解して消費者が商品選択することで、持続可能な社会を目指す活動を進め、第一回ジャパンSDGsアワード推進副部長賞を受賞しました。

パルシステムは、コマどころの宮城県美里町に本店を置く、みど



春は田植え、初夏は草取り、秋は稲刈り体験、冬は宮城県大崎市の蕪栗沼でマガンの観察などをしていきます。五月二十六、二十七日の交流では、大崎市、美里町、涌谷町を訪問。世界農業遺産登録地の大崎地域で居久根と呼ばれる屋敷林を見学し、田んぼの生きものを観察しました。参加者から「生産者の努力とすばらしい環境、生き物との共存があつてこそ、おいし

交流が育む食の安全

りの農協と二十年前から交流しています。二〇〇九年に、農協や美里町などと一緒に「宮城みどりの食と農の推進協議会」を設立し、交流事業や商品の開発と普及、環境保全型農業の推進に取り組んでいます。

産地での交流事業は年四回で、



5月に宮城県・大崎地域であった交流会の様子

いお米ができると思った」という声が上がりました。

ほかに、女性生産者を神奈川県に招き、郷土料理を教えていたことで生産地の食文化を知る料理教室を毎年開催しています。

パルシステムは一九九三年の冷害をきっかけに、九五年から予約登録米制度に取り組んでいます。

これは、環境保全型の稲作に取り組む生産者の米を、消費者である生協の組合員が一年間継続して購入する仕組みです。

二〇一一年の東日本大震災の際には支援活動も行い、昨年はパルシステム神奈川ゆめコープとみどりの農協が大規模災害における相互応援に関する協定を締結。お互いの地域づくりのため、交流は続いていきます。

※この連載は、NPO法人J-KSKによる『結核プロジェクト』の協力を得ています。